

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



「近所の大人」になろう

地域には子どもたちの日常を見守る大人がいます。決して特別なことではありません。子どもたちのために何かしたいと思った時、あなたにもできることはきっとあります。今号では子どもたちを見守る近所の大人をご紹介します。



地域で子どもを 育てるといふこと

子どもを見守る大人を増やそう

四街道市内では子どもたちを見守り、支援するための場がいくつも立ち上がっています。みんなで地域づくりセンターで行った子ども支援団体の交流会で「この場を必要としている子どもが来ない」「困っている子は本当にいるの?」という声が多数挙がってきました。そこでセンターでは、関係機関に問い合わせを行い、子どもたちの置かれている現状を把握しました。そして子どもたちへの関わりを学ぶ必要性を感じ「子ども見守りサポーター養成講座」を開催、この講座を受けた子どもも育ちに関心をもつ十数名で「子どもサポートプロジェクト」を立ち上げました。子どもたちを見守る大人を増やすことを目指し、具体的な取り組みとして「場づくり」と「情報発信」を始めました。

がんばり過ぎない

子どもサポートプロジェクトの代表を務める恩田真利子さんは「近所

のおばちゃん」として子どもたちと関わりたいと思い、プレーパークのスタッフとして活動し、子どもの料理教室の講師もしています。

「子どもが中学生になったとき、学校には行くことができて、しんどさを抱えている子がいることに気がきました。でも、親には話せないことがある子もいろいろな大人、たとえば近所の顔見知りのおじちゃん、おばちゃんがいる場があれば楽になるかもしれない、そんな場所を作りたいと思うようになりました」

そこで地域の方からの協力もあり、プロジェクトのひとつの活動として中高生のオープンスペース「RAKUまある」を千代田地区で始めました（毎月第3火曜日開催）。みんなでおにぎりや具だくさんの汁物を食べられる場所にしました。のんびり過ごすもよし、勉強するもよし、自分の好きなことをしながら過ごせる場を提供しています。

RAKUまあるに来る子どもたちのにぎやかな声を聞き、おいしそうにおにぎりを頬張る顔を見てみると、温かい気持ちになります。

がんばり過ぎないこと、自分も家族も大切にすることが恩田さんの活動のモットーです。そしてここに来る子どもものんびりしてほしいというその思いは「RAKUまある（楽しく、丸く）」の名前に込められています。



「一緒に活動する仲間を増やしたい」と
恩田さん

連絡先

子どもサポートプロジェクト

電話：043-304-7065

（みんなで地域づくりセンター）

中高生のオープンスペース RAKUまある

住所：四街道市千代田5-58-21

子どもたちの 日常を見守る



毎朝通学路に立ち、子どもたちを見守る大人がいます。新生あらおいに住む田中信夫さんは長年地域の子どもたちの通学の見守りをしてきました。子どもたちと目を合わせ、「おはよう」とみんなに声をかけます。戦争を体験し、厳しい時代を乗り越えてきたこともあり、安全のために時には厳しく指導することもあります。楽しく指し導することもありますが、楽しそうに見守りをする姿がとても印象的です。

きっかけは、田中さんが自治会長を務めた時、ある小学生の保護者から付近の道路が危険であると聞かされたことでした。自宅前をたたく子どもたちが通り、世の中で起る子どもを巻き込んださまざまな事件・事故が報道される中、この地域と子どもたちを守らなければとの強い思いから、九十歳を過ぎても見守り続けています。

鷹の台の井澤久美子さんは、以前は子育てなど日々の忙しさから地域の活動には参加していませんでしたが、知り合いにはロールモデルとなる人がいて「いつかその人のように

地域を温かく見守れる大人になれたらいいなあ」と思っていました。そんな中、PTA活動がきっかけとなり、旭中地区の主任児童委員に。勉強会や視察などを繰り返し、見聞を広めることから始めました。また普段から人との関わりを大切にし「子どものまち」や「あさひ子どもキッチン」など子どもたちのための取り組みを応援してきました。そんな井澤さんが大切にしているのは、一人が大勢の人に関わってもらうことです。

点と点を結んで、面で子どもを支えられるような地域にしていきたいと考えています。



こどものまちで受付をする
井澤さん（左）

半径50メートルの関係づくり

筆者が子どもだった頃、子どもたちが公園や道路など、近所に出れば必ず友達や大人がいました。自宅の半径50メートルの間に、たくさんの関係性が存在していました。あれから数十年経ち、自分の子どもたちを見ていると、気軽に友達などと触れ合える場が減っているように感じます。そんな現在だからこそ、自分の生活エリアに約束しなくても過ごせる場、そこに行けば誰かに会える場が求められているのかもしれない。

しかし、場があることだけでは足りません。地域の大人と子どもが会い、顔見知りになるきっかけをあえてつくることで、大人と子どもの「ナナメの関係」ができ、子どもたちが温かい気持ちで過ごせる地域になるのです。ひとりひとりの関係が繋がって面になり、そこに住む人たちが自然と子どもを見守ることができるようになります。

近所の出来事に目を向け、子どもたちを支える「近所のおじちゃん・おばちゃん」になりませんか？

ピックアップ

子ども見守りサポーター養成講座 「子どもの居場所に必要とされる サポーターとはどんな人？」



NPO法人パノラマ
<https://npo-panorama.com/>

12月8日、校内居場所カフェ事業の運営に携わるNPO法人パノラマの石井正宏さんを講師にお迎えして子ども見守りサポーター養成講座を開催、県内外から31人が参加しました。

子どもや若者の置かれている状況や、居場所をよく見かける場面は切実なものもあります。そのような子どもたちに寄り添い、理解し、偏見を持たずに見守り支援する「応援者」になるために、まずは「信頼貯金を貯めること」が必要と石井さんは指摘します。「子どもたちの発信しているSOSをキャッチできる感度を持ち知った顔になる。そうやって関わるうちに、信頼が貯まると子どもたちの方から心を開いてきます」という石井さんのお話に参加者は子どもとの関わり方を見出せたようです。

貧困など困難な状態にある子どもへの

支援は「経済的資本」だけではなく「文化資本」を充実させる必要があります。身近にある文化に多く触れると人となりがフックを増やすことができます。「文化のシャワーを浴びてほしい」というのが校内居場所カフェのコンセプトです。ワークショップでは、カフェでやってはいけない大人の関わり方をQ&A方式で話し合いました。カフェは高校生にとっては出会いの場です。肩書きは必要ありません。価値観を一つにしないためにもさまざまな立場の人が関わり、子どもたちがいろいろな考えに触れる機会をつくりましょう。

「指導ではなく支援」を。居場所の必要性、具体的な大人の関わり方など子どもを見守り支援するために必要な心得を学びました。

お知らせ

みんなで地域づくりセンターでは、これから地域で何かしたい人、すでに活動している人をサポートするプログラムや講座を実施しています。

お問い合わせは、
みんなで地域づくりセンターへ
お電話ください。
Tel. : 043-304-7065

「四街道市みんなで地域づくりセンター利用者アンケート」を実施します

センターは2010年オープン以来、地域課題への取り組みのプロデュースや地域づくりを担う主体のネットワークづくり、情報発信や相談受付などを行い、様々な分野の取り組みを支援してきました。今後もより魅力的な地域をみんなでつくっていききたいと考え、アンケートを実施します。ぜひご協力ください。

対象 : センターを利用する団体・個人の方

提出期間 : 2020年3月1日(日)～4月30日(木)

提出方法 : メールまたはセンター窓口でご提出ください。

*アンケートは、センターで配布、またはメールでお送りします。

*入力フォームでもご回答いただけます。

入力フォーム



編集後記

愛犬・やまとは14歳。庭先で日がな一日まったりと暮らす。先日私達の外出中に金具が壊れ、彼は逃走してしまった。「やまとが一人で散歩している」「誰かを噛んだら大変!」「リードがついたままだと車にひかれちゃう」。近所の皆さんが力を合わせ、彼を呼び寄せ、捕まえ、いつもの場所につないでくれた。子どもたちが独立し大半が夫婦だけで静かに暮らすこのまち。ペットまで見守るこんな皆さんと一緒にこのことがうれしくて心強い。(Hanako)

四街道市みんなで地域づくりセンターについて

四街道市みんなで地域づくりセンター
(四街道市シティセールス推進課分室)

開館日時 : 火-金 9:00-20:00 / 土 9:00-17:00

(文化センターの耐震工事のため、4月中旬まで火-金は18:00閉館となります)

休館日 : 日・月・祝日・年末年始

所在地 : 四街道市大日 396 四街道市文化センター 1階

Tel. : 043-304-7065 Fax. : 043-422-7051

E-mail : info@minnade.org Web : <http://minnade.org/>

みんなでNo.23

編集・発行 : 四街道市みんなで地域づくりセンター

発行日 : 令和2年3月1日 発行部数 : 4,500部

配架場所 : 市役所、公民館、図書館など センターのHPからもダウンロードできます。

表紙の写真 : 新生地区で子どもたちの通学を見守る皆さん

ホームページ



フェイスブック

